

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	1275200051		
法人名	有限会社エスディケア		
事業所名	グループホーム ふれ愛		
所在地	千葉県旭市万力318番地		
自己評価作成日	平成22年3月1日	市町村受理日	平成22年6月7日

事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://kaigo.chibakenshakyo.com/kaigosip/Top.do
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人VAICコミュニティケア研究所		
所在地	千葉市中央区千葉港4-4 千葉県労働者福祉センター5階		
訪問調査日	平成22年4月6日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

運営方針である「ゆっくり一緒に楽しく」をモットーとして、認知症状のある方が楽しく、日常生活が送れるよう努めています。お客様が「幸せを感じられるサービス」に取り組んでいる所です。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

緑豊かな干潟八万石の田園風景が一望できる環境にあるホームは、「ふれ愛」という名前が示すとおり、職員と入居者が日々の「ふれあい」を大切にしていることが伺える。「ゆっくり一緒に楽しく」の理念はスタッフがみんなで作ったものであり、体操や音楽を日々の生活に取り入れ、利用者の笑顔が印象的である。

・サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) 項目 1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 該当するものに印	項目		取り組みの成果 該当するものに印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない			

自己評価(1階)および外部評価結果(全体)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
理念に基づく運営					
1	(1)	理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	ホーム設立当初に職員と共に創り上げた。職員全体で共有。家庭的な雰囲気を大切に日々努めている。	「ゆっくり一緒に楽しく」の理念に基づいたサービスが、家庭的な中で実践されている。	
2	(2)	事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	スーパーまでの買物、散歩など外出を通し、近の方と接する機会がある。近隣の方が、野菜などを届けに立ち寄ってくれる。	民生委員の定期的な来訪があったり、地域の小学生の慰問を受けるなど地域との連携を大切に考えている。	
3		事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	入居者一人ひとりのペースを大切に支援している(朗読ボランティアに行く)小学生の慰問あり。お互いにかかわりを持っている。		
4	(3)	運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議を活かしてホームの現状を知って頂くよう取り組んでいる。意見を取り入れて、ケアの質の向上に努めている。	利用者家族、地域住民代表、市高齢者福祉課職員、ボランティアの代表の参加で行なわれているが、不定期の開催である。	運営推進会議が定期的開催していくための工夫が期待される。
5	(4)	市町村との連携 市町村担当者とは日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	市町村、GH連絡会を通じ、ホームの運営、考え方や実態などを伝え、協力し合い、サービスの質の向上に努めている。	市役所に毎月利用状況報告書と、グループホームふれ愛の広報紙を持参するなど、積極的に働きかけている。	
6	(5)	身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束に関する研修に参加している。身体拘束をしないケアは全ての職員が周知し、拘束ないケアを実践している。	身体拘束をしないケアを職員間で共有しており、夜間以外は施錠もしていない。	
7		虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	ホーム内会議において周知徹底している。少しの傷なども見過ごすことなく注意を払っている。		

グループホームふれ愛 自己評価(1階)・評価結果(全体)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	対象者の方は支援しています。制度をよりよく知る為に今後は学ぶ機会を持つよう努めます。		
9		契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入居契約時に契約書、重要事項説明書にそって説明、同意納得している。		
10	(6)	運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	契約時に苦情受け入れ窓口を伝え、ホーム内担当者を伝えている。	家庭的な雰囲気の中で、入居者家族が来訪時に意見を聞き、それについて会議で話し合い、運営に反映させるようにしている。	
11	(7)	運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	職員の意見や提案が言いやすい環境や雰囲気作りを行っている。	職員会議で職員が意見を出し、代表者に伝える仕組みがあり、運営に反映させるように努めている。	
12		就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	休憩時間は入居者と離れて過ごすなどストレスを抱えないよう環境作り心がけている。離職者も少ない。		
13		職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	職員は資格や経験に応じホーム内外の研修に参加している。		
14		同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	グループホームの連絡会などに参加し、情報交換を行って質の高いケアに努めている。		

グループホームふれ愛 自己評価(1階)・評価結果(全体)

自己	外部	項目	外部評価	
			自己評価 実践状況	実践状況 次のステップに向けて期待したい内容
安心と信頼に向けた関係づくりと支援				
15		初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	まずは安心して頂くよう、本人の希望などを十分聞いて対応に努めている。職員は常にゆっくり一緒に過ごすようにしている。	
16		初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	契約時に十分話をうかがい、家族に安心して頂くよう心がけ、信頼関係づくりに努めている。	
17		初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	家族と相談、話し合いを十分行い、本人に合った対応に努めている。	
18		本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	職員は入居者一人ひとり経験などを尊重し、お互い家族の一員のように心がけている。	
19		本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ホーム、家族と共に支えていく関係を大切にしている。家族対応による通院、外出、外泊などの支援をしている。	
20	(8)	馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	契約時に話し、馴染みの物などは持参して頂くよう伝え支援している(遺影、位牌、家具)	家族と一緒に馴染みの場所に外出したり、友人が来訪したりといった関係継続を支援している。
21		利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず、利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	一人ひとりを把握し、利用者同士の関係に支障が生じないように努めている。行事、買物、余暇活動、席替えの支援。	

グループホームふれ愛 自己評価(1階)・評価結果(全体)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	契約終了時には必要な情報提供を行っている。入院時は面会を行う。これまでの関係を大切にできるかぎりの事を行っている。		
その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日々の生活から入居者の思いや希望を会話や表情などから察し、把握するよう努めている。	生活歴等を参考に、気持ちや要望を把握する工夫をしている。また、短時間でも本人が納得するまで根気良く丁寧に意向を汲み取るようにしている。	
24		これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居時、情報収集に努めている。常に一人ひとりに合ったサービス提供ができるよう努めている。		
25		暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	一人ひとり、出切る事、出来ない事を判断し、持っている力を引き出せるように支援している。		
26	(10)	チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	本人や家族の要望を踏まえ、課題を出し、計画作成している。職員会議では利用者の状況を話し合い介護計画見直しを図る。	入居前に関わった介護支援専門員、家族、看護師、医師等の意見を介護計画に反映させている。モニタリングも全職員で見直すようにしている。	
27		個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個別に記録記入をしている。日頃の生活状況の記録、申し送りノートを活用し情報を共有している。介護計画への反映。		
28		一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	一人ひとりの身体状態に応じた対応ができています。病院の送迎(リフト車)職員の配置など。		

グループホームふれ愛 自己評価(1階)・評価結果(全体)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	運営推進会議でホームの協力をお願いをしている。消防署から指導を受けての避難訓練の実施、ボランティアの訪問あり。		
30	(11)	かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居前からのかかりつけ医の受診継続。緊急時は家族相談後、受診や往診ができるようになっている。	もともとのかかりつけ医への受診を支援しているが、24時間の緊急対応に応じてくれる医療機関とも連携をとっている。	
31		看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	正看護師の配置、密に連絡相談する協力医に必要に応じた相談、指示を受けている。		
32		入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時は生活内容や医療情報提供し、面会や状態確認し、混乱や不安を少なく、退院後は生活できるよう助言を受ける。		
33	(12)	重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	できるだけ早い段階から家族に相談し、確認を取り、日々の状況を病院に連絡し、可能なかぎりホームで生活ができるよう皆で支援している。	契約時に本人、家族に方針を説明している。重度化した際は、ホームの看護師が入居者の日頃の心身の状況を医師に伝え、指示を受けることにしている。	
34		急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	緊急時の体制はマニュアルを備え付けている。職員は救命講習に参加し、技術の習得を図っている。		
35	(13)	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	火災非難訓練を年2回実施している。推進会議時、地域の皆さんに協力して頂きたい事をお願いしている。	年1回、消防署の協力を得ての訓練を実施しているほか、ホーム単独でも、避難訓練を全職員参加で行っている。3月にスプリンクラーを設置した。	夜間を想定した訓練の実施や、地域との協力体制を築くことが今後の課題と思われる。

グループホームふれ愛 自己評価(1階)・評価結果(全体)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	一人ひとりに尊重した言葉掛けを常に心がけ、失敗があっても責めたりせず接している。	入居者の尊厳を守るために、自由に行動できることを大切にしている。基本的な礼儀や声掛けの語調等への配慮も職員に周知している。	
37		利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	洋服選び、散歩、入浴など自分で決めることができるような対応をしています。		
38		日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一日の流れはある程度決まっているが、一人ひとりのペースを大切にしています。		
39		身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	一人ひとりその人らしい洋服、髪型など好みに合う対応を努めている。訪問理美容や行きつけの店希望などもある。		
40	(15)	食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	職員が入居者と共に広告に目を通す(食材、価格など情報を得る)また、身体能力に応じた準備や片付けをお願いしている。	食材の下拵え等は入居者で出来る人が参加している。献立は季節の味を大切に、水分補給も考慮している。職員、入居者がともに食卓を囲んでいる。	
41		栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	栄養バランスを考慮し、献立を作成し、個々の状態により食物形態を変え、飲食状態の記録もある。		
42		口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後口腔ケアを促し状態により介助して口腔衛生に努め、夜間は義歯を預り洗浄を行っている。		

グループホームふれ愛 自己評価(1階)・評価結果(全体)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄パターンを把握し、トイレ誘導をおこなひ、可能な限りトイレでの排泄に努めている。	見守りを大切にして、その人の潜在能力を大事に支援している。	
44		便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	一人ひとりの身体状態に合わせ運動、飲食物の工夫を行い、看護師やかかりつけ医に相談を図っている。		
45	(17)	入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	主に午後を入浴時間としているが、入居者の希望には対応している。	毎日でも入浴可能である。時間帯や、入浴にかける時間も、出来る限り、希望に沿うようにしている。	
46		安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	その日の状態により休息を促し安眠できるよう寝具、室温、環境に配慮している。		
47		服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬の目的、副作用、用法、用量について理解しており、ホームで管理している。事務所内、個人記録簿の裏に説明書あり、確認できる。		
48		役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	利用者個々に応じて、家事の軽作業や掃除などをお願いしている。又、嗜好品などは本人と購入するときもあり支援している。		
49	(18)	日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	天気の良い日はなるべく戸外に出かけられるよう支援している。又、家族対応での受診、外出、外泊への協力支援を図っている。	日常的な散歩の他に、個別に郵便局に行ったり、スーパーに買い物に行くなどの支援をしている。ときには外食することもある。	

グループホームふれ愛 自己評価(1階)・評価結果(全体)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	個々の管理能力に応じ、自己管理やホーム管理を行っている。その人に合った対応を行っている。買物の支援を行っている。		
51		電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	本人の自由で希望により、手紙や電話ができるように支援している。又、携帯電話の所持者の方もいます。		
52	(19)	居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	畳のスペースやソファがあるフロアは入居者が一番長く過ごす場所なので、光、温度などに特に気をつけている。	季節の花が飾られたリビングは、ソファの配置を工夫して、寛げるようにしている。室温や光も適切に調整されている。	
53		共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	一人ひとりが気に入った場所(畳、ソファ、マッサージ機)で過ごして頂く様に慣れ親しんだ家具がある。		
54	(20)	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	使い慣れ親しんだ家具や寝具、備品が持ち込まれたり、用意されている。	馴染みの家具や本人にとって大切なものを置いて、それぞれ、居心地よく過ごせるようにしている。	
55		一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	一人ひとりが身体能力を活用して生活ができるよう工夫している。環境の整備。		